

ニューカッスル大学英語研修 参加報告書

私は8月26日～9月20日の4週間、オーストラリアにあるニューカッスル大学で語学研修に参加しました。短い期間ではありましたが、オーストラリアならではのことも体験でき、充実した生活を送れました。今回の留学では、日常のやり取りなど実際に海外の人が使う英語を学ぶことと日本と異なる習慣や文化の違いを知り、海外から日本を客観視する感覚を身に着けることを目標にしていました。これらの目標を達成するために、ホームステイ先での生活や授業以外での時間を特に大切にしました。

学校生活については、私たちと同じようにニューカッスル大学に留学に来ている海外の学生や現地の学生と関わる機会も多かったです。大学の敷地が広く、カフェやバスケットコートもあり、勉強に集中できる環境が整っていると同時に、様々な活動に参加するのをサポートする仕組みが多く見られました。授業は午前と午後2時間ずつあり、4技能を満遍なく鍛えることができました。クラスのレベルは渡航前に受けたテストの結果を基に

「Elementary」、「Intermediate」、「Upper Intermediate」、「Academic」の4つに振り分けられました。私は、Upper Intermediate のクラスで授業を受けました。私のクラスには中国人とラオス人の学生もいましたが、日本人が7割ほどを占めていました。また、留学の期間も人それぞれで、2週間しか滞在しない学生もいれば、1年近くニューカッスル大学で勉強している学生もいました。授業内容は、週ごとにトピックが決められており、そのトピックについての短いエッセイを書いたり、リスニングなどをしたりしました。ライティングでは、エッセイの構造を説明していただき、私の書いた文章を先生が細かくチェックしてくださいました。1つずつの段落の役割を意識することで、よりアカデミックな文章になると学びました。リスニングでは、聞いている間にメモを取ることが重要で、キーワードを抜き取り、省略形や記号を使うなどのコツを教わりました。全体的にペアや少人数のグループでディスカッションを行う時間が多く、クラス内では日本語を使わないように言われていたので、様々な国籍の人とも会話を楽しむことができました。昼休みは、北九大よりも長く2時間あり、午後の授業に向けての準備をしたり、リフレッシュしたりと有意義な時間を過ごすことができました。また、学生が中心となって行われるイベントも昼休みに多く行われていて、クラブ活動の展示やフリーミールが行われていました。しかし、どうしても昼休みは、一緒に留学に来た北九大の生徒とまとまってしまい、日本語ばかりで話してしまったことは反省すべき点でした。放課後は、学校からバスに乗って近くのビーチに行ったり、ホームステイ先の

近くにあるスーパーに行って買い物をしたりしました。

ホームステイ先については、大学からバスで30分くらいのところにあるお宅でした。私のホストマザーはベジタリアンの方でした。最初は、お肉が出てこないことに対して少し残念に感じていましたが、なかなか体験できない貴重なことであり、ヘルシーな食生活が送れたことはとても良かったと思います。また、日本食にも興味があり、一緒にご飯を作れたことは、文化の違いを知る機会にもなり、とても楽しかったです。ホストマザーが日本のお米を日頃から食べていたこと、海苔やインスタントのお味噌汁、豆腐などの日本らしい食材がお家に置いてあったことに驚きました。スーパーに行った際に日本の調味料やお菓子が販売されていたり、ショッピングモールのフードコートには高確率でお寿司屋さんが入っていたり、ここまでオーストラリアに日本の食べ物が浸透しているとは思っていませんでした。週末には、ホストマザーが朝のファーマーズマーケットに連れて行ってくれました。他にも、景色のきれいなビーチまでドライブしたことやホストマザーの友人とディナーを食べたことなど多くの思い出を作れました。

今回の留学で一番印象に残っていることは、週末に北九大の全員でシドニー観光したことです。自分たちで行く場所を決めて、マップを見て電車の駅などを調べるところが、実践的で面白かったです。セント・メアリー大聖堂やオペラハウス、タロンガ動物園などの有名な観光地を訪れることができ、とても満足のいくものとなりました。他の休日も自然保護区やオーストラリアの一つの魅力でもあるきれいなビーチをたくさん訪れて、雄大な自然を満喫できました。

今回の留学を通して得た考え方は、自分を成長させるためには、自ら行動して積極的になる必要があるということです。海外で自分自身の英語能力を上げるためには、その土地で出会った人を大切に、話しかけたり、質問をしたりすることが重要だと身に染みて感じました。その点で私はまだ積極的になれないところがあったので、とても反省しています。また、日本の政治や経済について聞かれた時にうまく答えられないことが多々あったので、自国のことについてもっと学ばなければならないと思いました。そして、このプログラムを通して、もっと英語を話せるようになりたいという気持ちがうまれました。今後はこのモチベーションを維持して、大学での勉強やIELTSなどの英語の試験に向けての準備に力を入れ

ていきたいと思います。

